



## 平成 22 年度 横浜国立大学 FD 活動報告書

### 学生のための FD へ、より身近な FD へ

FD 推進部門長 上野誠也

今年度の新規事業のうち、特筆すべきは教育改善学生スタッフ（通称：学生 FD スタッフ）を立ち上げたことである。本来、FD とは教員の授業方法の改善からカリキュラム改善まで及ぶ教員側の活動である。しかし、改善された授業やカリキュラムの受益者は誰であるか。当然のことながら学生である。それならば、学生が本当に利益を得ているかは、学生に聞かなければ分からない。従来からある授業評価アンケートは一授業に対しての評価として機能するが、カリキュラムなどのマクロな評価を拾うことができない。そこで、より広い視野で受益者側から教育改善を提案できる組織として、学生 FD スタッフを立ち上げた。横浜国立大学が学生による FD を始めた記念すべき年度である。

身近な FD を目指した新規事業を開始した点でも、今年度は新たな動きを示した。今までの本学の FD 活動は、FD 推進部が立てた企画に

全学の教員が参加する形式が主であり、教員側の動きが必要となる FD 活動であった。例えば、シンポジウムを企画すれば、会場まで教員は移動しなければならない。今年度は FD 推進部が教員の場所へ訪問する企画を立てた。部局の教授会の前に行う FD ミニシンポジウムは短時間でポイントを伝える企画である。また、個々の授業へ訪問する授業コンサルティングは、学生の生の声を引き出す企画である。身近な FD を実現することで、多くの教員が FD 活動に参加できることを願っている。本学の FD 推進活動は着実に続けているが、他大学と比べて、活発に行われているとは評価しがたい。今年度に立ち上げた新企画が順調に機能するように今後の活動が必要である。教員の意識改革に結びつく企画を FD 推進部としては今後も続けていく予定であるので、より多くの教員のご協力をお願いしたい。

## 平成 22 年度 FD 推進部の活動

### 研修会・シンポジウム WG 活動報告

#### 1) 初任教員研修会

**開催目的:** 平成 21 年 4 月 2 日から平成 22 年 4 月 1 日までに本学および附属学校に採用された教員を対象とした研修会である。横浜国立大学の教育理念・教育目標などを踏まえて、魅力ある授業を行うための教育改善に取り組むと共に、初任教員が部局を超えて本学への帰属意識を持つきっかけになる場を設けることを目的とした。

今年度は、第二部において大学教員と附属学校教員とを分けて実施した。教育に関する知識や今後の活動が両者に差があるために分けた。そして、大学初任教員対象の第二部を FD 推進部が担当した。

**開催日時:** 平成 22 年 4 月 1 日 13:00-17:00

**開催場所:** 教育文化ホール中会議室他

**参加者数:** 60 名

**プログラム:**

##### 【第一部】(全体で実施)

大学の概況について・・・

鈴木邦雄学長



初任教員研修会 (質疑応答の風景)



初任教員研修会：ワークショップの議論

本学の教育について・・・

高木まさき大学教育総合センター長  
情報セキュリティについて・・・

額田順二情報基盤センター長  
就業規則、セクハラ対策等について・・・

村田憲幸人事・労務課長

##### 【第二部】(大学初任教員対象)

FD とは・・・

上野誠也 FD 推進部門長  
授業コンサルテーションの紹介・・・

安野舞子 FD 推進部特任講師  
魅力ある授業へ向けて[ワークショップ]・・・

金馬国晴 FD 推進部兼務教員  
質疑応答・・・

上野誠也 FD 推進部門長

##### 【第二部】(附属学校初任教員対象)

附属学校初任教員研修会・・・

教育人間科学部にて実施

**成果と課題:** 新任教員にとって本学の教育の現状や就業規則などの共通した情報を知るよい機会となった。他部局あるいは他附属学校の教員と接する場としても有効であった。

今年度は第二部を 2 グループに分けて実施し

た。FD 推進部は大学教員のみを対象としたグループを担当し、講演会およびワークショップを実施した。ワークショップは、「授業科目で、あるいは、学生との関わりで、大切にしたいこと」という質問を投げかけ、グループで議論を進めた。新規に採用された教員相互に、様々な意見交換ができて、効果的であった。ただし、講義を担当しない研究職として採用された新任教員も参加しており、その教員への配慮も必要である。



TA 研修会「講義・ゼミ担当」

## 2) TA 研修会

**開催目的：** 担当教員の自主的な判断に任せられている TA (ティーチング・アシスタント) の導入教育を実施した。受講学生の履修を援助する技術を高めることを目的とした。実験・演習担当と講義・ゼミ担当とに分けて、実施した。TA の確定時期と作業の開始時期を考慮して、2 グループに分ける必要があった。ただし、研修内容はほぼ同じとした。

[実験・演習担当]

**開催日時：** 平成 22 年 4 月 15 日 16:20-17:40

**開催場所：** 工学部事務棟第 1 会議室

[講義・ゼミ担当]

**開催日時：** 平成 22 年 5 月 26 日 16:20-17:40

**開催場所：** 教育人間科学部事務棟大会議室



TA 研修会「実験・演習担当」

**プログラム：** (両担当とも共通)

TA の役割と責任・・・

上野誠也 FD 推進部門長

TA 実践ワークショップ・・・

FD 推進部

TA 経験者インタビュー・・・

安野舞子 FD 推進部特任講師

質疑応答・・・

上野誠也 FD 推進部門長

**成果と課題：** 平成 21 年 12 月に外部の講師を招いて実施した TA 研修会の形式を引き継いだ内容で FD 推進部が講師も担当して実施した。前年度の研修会のアンケートから実施時間帯を夕方に設定し、受講 TA の多い部局の大会議室を会場として使用した。自由参加型の研修会とした。実験・演習担当には 80 名程度の多くの TA が参加したが、講義・ゼミ担当の参加者は 10 名前後と少なかった。

終了後のアンケートを見ると、初めて TA を担当する学生にとって、不安を解消する機会となったというコメントがみられ、成果はあったと考えられる。一部、研修会の運営方法への不満があり、今後、どのように対応するかを検討する必要がある。さらに、講義・ゼミ担当の参加者の増加も検討課題である。

### 3) FD ミニシンポジウム

開催目的：FD 推進部では、毎年 1 回、全学の教員を対象とした FD シンポジウムを開催してきた。しかし、全学の教員数に比べて参加者は少なく、目的とした内容が教員全員へ伝わらない実情があった。その理由として、開催会場が遠い、他の業務と重なる、開催時間が長いなどの物理的理由が挙げられる。

そこで、今年度から始めた試みとして、各部署の教授会の前などに 30 分程度の時間を利用して、部局に合わせた内容の FD ミニシンポジウムを開催することを企画・実施した。これにより、多くの参加者を得ることを狙った。今年度は 3 部局で開催した。



環境情報研究院で開催した FD ミニシンポジウム

[環境情報研究院]

開催日時：平成 22 年 11 月 15 日 14:00-14:30

開催場所：環境情報 1 号棟 5 階合同セミナー室

[留学生センター]

開催日時：平成 22 年 12 月 14 日 14:30-15:00

開催場所：留学生センター会議室

[教育人間科学部]

開催日時：平成 22 年 12 月 15 日 14:45-15:15

開催場所：教育人間科学部事務棟大会議室



留学生センターで開催した FD ミニシンポジウム

プログラム：(各部署共通)

講演「到達目標はなぜ必要か」・・・

上野誠也 FD 推進部門長

ワークショップ「到達目標を書いてみよう」・・・

FD 推進部

講演「到達目標から得られるもの」・・・

上野誠也 FD 推進部門長

成果と課題：教員の利便性を考えて、部局で開催される教授会の前の時間帯に開催し、多くの参加者を得ることが一つの目的であった。この目的は実現され、開催した各回とも、教授会構成員の大半が参加することが実現できた。

今回選んだテーマは、シラバスの執筆に関することで、平成 22 年 9 月の合宿研修会で得た情報を基に「観点別到達目標をふまえたシラバスづく



教育人間科学部で開催した FD ミニシンポジウム

り」と題してFD推進部が行った。今後のテーマの選択は、当企画が継続するための鍵となるため、参加者が満足するテーマを選ぶことが必要である。また、各回の参加者は十分得られたが、全学で見れば4部局で開催されていない。必ずしも全部局で1年間のうちに開催する必要はないかもしれないが、どのような開催方針にするかも検討課題である。

#### 4) FD シンポジウム

「高校生を大学生へと育てる－初年次教育－」

**開催目的:** 初年次教育に焦点を当て、大学へ入学した学生に必要な教育方法やカリキュラムを考える場を設けた。外部講師による講演で、高校生や入試の実態を知り、昔の大学生と違う新入生の特徴を把握することを前半の内容とした。現在行われている初年次教育の担当者や在学生の意見を聞き、現状の教育における問題を参加者で共有することを後半の内容とした。

**開催日時:** 平成23年3月1日 13:10-17:20

**開催場所:** 教育文化ホール大集会室

**プログラム:**

挨拶・・・

溝口周二副学長・教育担当理事

開催趣旨の説明・・・

上野誠也 FD推進部門長

第1部 高校の現状と課題・・・

附属横浜中学校 松本哲副校長

第2部 高度に組織化された受験対策の現状と初年次教育の意義・・・

全国学力研究会 河本敏浩理事長

第3部 パネルディスカッション

コーディネーター・・・兼務教員 金馬国晴

事例報告3件

・本学における高大連携・・・

入学者選抜部 下城一部門長

・教育人間科学の「基礎演習」・・・

教育人間科学部 津野宏准教授

・学生FDスタッフから提案・・・

教育人間科学部2年 伊藤恭介委員

**成果と課題:** 高校生の現状や予備校における受験生への対応が現場の当事者からの声で聞くことができ、有意義であった。学生FDスタッフの改革提案も厳しいところを突いており、シンポジウムの構成も的確であった。ゴールを見せる教育として、初年次教育の役割が明確にされるなど、討論の内容も充実していた。参加者が少ないことが課題として残っており、開催時期や方法の検討が必要である。



FDシンポジウムにおけるパネルディスカッション

## 合宿研修会 WG 活動報告

開催日時：9月2日(木)～3日(金)

開催場所：八王子・大学セミナーハウス

プログラム：

### 第一日目 (13:00-18:10) 「評価って？ ーシラバスづくりから大学評価まで」

評価の問題について前年度より踏みこんで扱った。マイクロレベルでの個々の科目についてのシラバス(その到達目標、成績評価など)から、マクロレベルでは各部局のディプロマポリシー(本学で言う YNUinitiative)に至るまで、一貫させて考えた。シラバスづくりのポイントを、考え語るワークショップを通じて学び、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーについても知った。

(現地集合、昼食)

FD 推進部門長挨拶、オリエンテーション

I) はじめのワークショップ「YNUinitiativeを読む」

II) 講演「目標に準拠した評価とは？-成績評価から大学評価まで」: 沖裕貴教授(立命館大学教育開発推進機構)

III) ワークショップ「観点別到達目標をふまえたシラバスづくり」: 同上

(夕食を兼ねて懇親会: 食堂)

**成果と課題：** 講師の話もワークショップも、参加者にたいへん好評で、シラバスに「授業の目的」と別に「履修目標・到達目標」がある意味や、学生を主語にして書こう、といわれてきたことの意味がやっとわかった、といった声がかかれた。

この内容は、秋に各部局の教授会前に行われたミニシンポジウム(先述)に活かされていった。

### 第二日目 (9:00~15:00) 「学生参画型FDのケースと国大での可能性」

今年度初めて発足させた学生FDスタッフについて、その一つの先例として、追手門学院大学の

先生方と学生たちの参加・報告をもとにして考えた。本学の学生4名も、8月末の法政大、立命館大での学生フォーラムに参加した感想を述べた。

注目すべきは、追手門の学生たちがファシリテートをして、実際に「しゃべり場」を、学生、教員、職員が入り交じって実践したことである。

※「しゃべり場」とは、複数の少人数グループに分かれて、決められたテーマについて自由に意見を述べ合う場である。重要なルールが一つあり、他人の意見を否定しないことである。

岡山大、立命館大などで開かれるフォーラムの目玉の企画であり、参加大学の違いを超えて、教職員が混じりあって和気あいあいと語り合う。

(朝食)

IV) 講演1「学生とともに進めるFD～追手門版学生FDスタッフ 現況と課題」: 梅村修教授(追手門学院大学教育研究所)

講演2「大学教育は学生が加わることで成り立つー学生が参加したいいくつかの例をもとにー」: 古川隆司准教授(同上)

プレゼン「追手門の活動報告」: 追手門学院大学学生FDスタッフの学生4名

V) ワークショップ「学生しゃべり場」: 同上

(昼食)

VI) ワークショップ「しゃべり場のふりかえり」

VII) おわりのあいさつ

**成果と課題：** 追手門学院大学の教員と学生たちには、前日の夜の懇親会から参加していただいた(夜中、各宿泊室でも、教員相互、学生相互、教員と学生とで、語り合いが続いた)。我々教職員の間も大学の違いをも超えて議論をし、とくに「しゃべり場」を経験する素地ができたし、学生どうしでも知り合いとなり、今後の活躍を誓い合うというまたとない機会となった。

※詳細はFDニューズレター13号【2010年10月発行】をご参照下さい。

## 学生参加型 FD WG 活動報告

本年度のFD推進部会は、「学生参加型FD推進活動の設立」を重要テーマの一つとして掲げ、以下のとおり、学生グループを組織化した。

### 1) 募集方法

応募対象は、本学の学部生及び大学院生とし、各学部長からの推薦及び公募から選ばれた。公募者に関しては、寄せられた小論文に基づき審議した結果、8名全員が採用されることになった。

### 2) 発足式

9月30日午前9時30分より事務局5階会議室において行われ、学長から、「本学の教育改善のために積極的な意見を」との期待が寄せられた。学生FDスタッフの代表（教育人間科学部2年木村仁星さん）から抱負が述べられた。

### 3) 合同会議

2011年1月までに4回開催された。この合同会議は、学生FDグループ、FD推進部教員、学務部教務課職員、その他、FD推進部門長が指名した者から構成され、毎月1回、本学の教育内容・方法の改善に関わる学生FDグループからの企画・立案・提言やFD推進部会からの提案について審議することを目的としている。

- 第1回 9月30日開催（自己紹介・趣旨の確認）
- 第2回 10月21日開催（代表・副代表の選出）
- 第3回 11月30日開催（学生FDグループの活動の進め方についての討議）
- 第4回 1月25日開催（FDシンポジウムでの学生FDグループによる発表についての討議）

### 4) 外部フォーラム参加の実績

本年度は、「学内重点化競争的経費」より学生FDグループの活動に対する予算を配分していただいた。そこで、その予算を使い、他大学での教育改善に関する学生交流イベントや、学生FDスタッフとして自らのリーダーシップ力を磨くための「リーダーシップ研修」に学生FDスタッフを派遣した。

1. 法政大学第5回FDフォーラム（テーマ「大学での「授業」の活性化とは!!」）@法政大学  
平成22年8月27日（金）  
学生FDスタッフ参加者 7名
2. 学生FDサミット・2010夏@立命館大学  
平成22年8月28、29日（土、日）  
学生FDスタッフ参加者 4名
3. FD合宿研修会@八王子大学セミナーハウス  
平成22年9月2、3日（木、金）  
学生FDスタッフ参加者 5名  
**※FD推進部主催の本学の合宿**
4. 学生リーダーズ合同研修 @愛媛大学  
平成23年2月22、23日（火、水）  
学生FDスタッフ参加者 5名



発足式での記念撮影

※詳細はFDニューズレター14号【2011年1月発行】をご参照ください。

## FD ニュースレターWG 活動報告

FD ニュースレター関係の平成 22 年度の活動は以下の通りである。

今年度はニュースレターを印刷物で配布したが、来年度は web 版を主とし、印刷物は 4 ページ程度のダイジェスト版にする方向で検討している。

なお、平成 22 年 5 月に発行した特別号(平成 21 年度横浜国立大学 FD 活動報告書)は平成 21 年度中に発行する予定だったものである。

- 1) 特別号 (2010(平成 22)年 5 月発行, 12 頁, 平成 21 年度横浜国立大学 FD 活動報告書)
  - (1) 新たなステップへ
  - (2) 平成 21 年度 FD 推進部の活動
    - (ア) 研修会・シンポジウム担当活動報告
    - (イ) FD ニュースレター担当活動報告
    - (ウ) 授業改善担当活動報告
    - (エ) 公開授業担当活動報告
  - (3) 学外シンポジウム等参加実績
  - (4) 他大学 FD 推進機構の訪問調査
  - (5) 平成 21 年度 FD 推進部委員名簿
- 2) 第 12 号 (2010(平成 22)年 6 月発行, 20 頁)
  - (1) 平成 22 年度 FD 推進部活動方針
  - (2) 平成 21 年度 FD シンポジウム報告
  - (3) 初任教員研修会
  - (4) 書評
  - (5) 平成 22 年度 TA 研修会報告
  - (6) 授業コンサルテーションの紹介
  - (7) 他大学シンポジウム参加報告
  - (8) 他大学訪問調査報告
- 3) 特別号 (2010(平成 22)年 7 月発行, 12 頁, 平成 21 年度授業評価アンケート実施状況・分析および自己点検票総括)
  - (1) 平成 21 年度授業評価アンケート実施状況・分析

- (2) 平成 21 年度自己点検票総括

- 4) 第 13 号 (2010(平成 22)年 10 月発行, 16 頁)
  - (1) FD 合宿研修会報告
  - (2) 公開授業報告
  - (3) 他大学訪問調査報告
  - (4) 外部セミナー参加報告
- 5) 第 14 号 (2011(平成 23)年 1 月発行, 16 頁)
  - (1) 「学生参加型 FD 推進活動」取組み報告
  - (2) 他大学学生フォーラム参加報告
  - (3) 学生 FD サミット参加報告
  - (4) FD ミニシンポジウム報告
  - (5) 部局 FD 活動紹介
  - (6) 公開授業報告
- 6) 第 15 号 (2011(平成 23)年 3 月発行, 16 頁)
  - (1) FD シンポジウム
  - (2) 公開講座
  - (3) 各部局の FD 活動報告
  - (4) 外部セミナー報告
  - (5) 授業コンサルテーション
  - (6) TA 研修会予告

## 公開授業 WG 活動報告

### 1) 2 期にわたる公開授業

今年度より公開授業が前期、後期の 2 期開催される事となった旨は前回の報告書にも記した通りであるが、以下に本年度開講された全公開授業を示したい。総量は変わらないものの、後期に比較すると前期の公開授業数が少なく感じられ、来年度は全体の配分を年度当初より視野にいれた偏りの少ない公開授業にしていくべきだろう。



## 2) 前期公開授業の表題と実施日時

- ・「技術マネジメント論」周佐喜和教授  
6月16日(水)3限 工学部講義棟 A202
- ・「比較社会文化論」ソントン武アサー准教授  
7月8日(木)5限 経営学部講義棟 1号館 106 教室
- ・「原価会計論」高橋賢准教授  
7月9日(金)2限 経営学部講義棟 2号館 208 教室
- ・「絵画実技Ⅲ、Ⅳ」赤木範陸准教授  
7月15日(木)4限 教育人間科学部第4研究棟 311 室
- ・「基礎演習」松永友有准教授  
7月20日(火)1限 経済学部事務棟 306ゼミ室
- ・「刑事模擬裁判」高原將光教授  
藤原光秀教授 高橋健一郎教授  
9月7日(火)、8日(水)、9日(木)  
3日間とも1~5限  
教育文化ホール(大集会室)

## 3) 後期公開授業の表題と日時

- ・「経営の英語」中野弘美教授  
11月12日(金)2限 経営学部講義棟 2号館 207 教室
- ・「ゲーム理論」武岡則男准教授  
11月17日(水)1限 経済学部講義棟 1号館 212 教室
- ・「フィナンシャルエコノミクス」森田洋教授  
11月18日(木)2限 経営学部講義棟 1号館 207 教室
- ・「日本語 GE」門倉正美教授  
11月24日(水)2限 留学生センター104 教室
- ・「応用地質学」谷和夫教授  
11月25日(木)4限 土木工学棟セミナー室
- ・「集積回路工学」吉川信行教授  
11月26日(金)3限 工学部講義棟 C301 教室
- ・「ヨーロッパの生活と文化」小宮正安准教授

12月3日(金)3限 教育人間科学部講義棟 7号館 201 教室

- ・「リスク分析論」松田裕之教授

12月3日(金)6限 環境情報1号棟 306 教室

- ・「民法演習Ⅱ」高橋寿一教授

12月21日(火)3限 国際経済法学研究棟 305 教室

ご多忙にも関わらずご協力頂きました先生方にはここに深く謝辞を表したいと思います。

## 授業改善WG活動報告

### 1) 学生による授業評価アンケート

本年度も、授業改善のための「学生による授業評価アンケート」を各学期末に実施した。前期は平成22年7月7日~28日、後期は平成23年1月7日~31日までを実施期間として行った。

本年度は、昨年度のFD推進部会で審議されたアンケート項目の見直し案を踏襲し、ある質問項目の回答の選択肢を増やしたり、文言を変更したり、質問項目自体を減らすなど、昨年度のものにある程度変更を加えた。

なお、本年度は「基準年度」であったため、履修者が20名以下の少人数授業においてもアンケートを実施することになっていたが、後期実施分に関しては、FD推進部会での審議の結果、回答者が5名を下回る科目については、授業科目担当者の判断により実施を任意とした。

本年度前期・後期の授業評価アンケート結果の分析報告は、来年度前期にFDニュースレター特別号として刊行する予定である。

### 2) アンケートに基づく自己点検票

本年度も、授業評価アンケートの結果を受けて、教員が自身の授業をどのように改善するかを考えることを主たる目的とする「自己点検票」の作

成依頼と回収を行った。

授業評価アンケートの実施からアンケート集計結果を受領し、自己点検票を作成するまでが一連の活動であることは従前より周知しているが、自己点検票の提出率が著しく低いことが毎年の課題であった。

本年度前期に至っては、提出率が 19%と過去最低の結果となった（本稿執筆時期現在、後期の提出率はまだ出ていない）。自己点検票の提出方法、もしくは自己点検票に代わる手法の見直しが急務の課題である。

なお、平成 21 年度の各学期に提出された自己点検票は、本年度、大学教育総合センターのホームページ上で公開した（ID とパスワードを入力しなければ閲覧不可）。本年度分の自己点検票も同様に、来年度、ホームページ上で公開する予定である。

### 3) 授業コンサルテーション

授業運営の振り返りや、よりよい授業づくりを目指す教員を対象に、本年度よりコンサルテーション事業を開始した。授業コンサルテーションとは、「教育開発担当者がクライアントである大学教員と共に授業の課題を発見し、解決策を共に模索する取組」のことである。

本コンサルテーションは本来、サービスを希望する教員に対して行うものであるが、導入年度である本年度は、前期を「試行期間」とし、FD推進部から協力を依頼する形で 6 名の教員にご体験いただいた。

「授業の課題を発見し、解決策を模索する」ためのデータの収集方法として、本コンサルテーションでは MSF (Midterm Student Feedback) と呼ばれる米国で開発・実施されている手法を取り入れている。これは、学期の中間期に FD 推進部専任教員がコンサルテーションを受けている教員のクラスに入り、受講生にヒアリングを行うものである。今回は、6 クラス・111 名の学生に

MSF を行った。

前期末に、MSF に参加した受講生に任意でアンケート調査を行い、ご協力いただいた 6 名の教員にもコンサルテーション後アンケートを行ったが、概ね好評であった。今後、より多くの教員に本コンサルテーションをご利用いただけることを願っている。



MSF の実施風景

### 4) 『YNU 魅力的な授業を創る—授業の工夫・実践集』の刊行

個々の授業において、教員は様々な工夫をしているはずである。しかし、その工夫について、部局を超えて教員同士情報を交換し合う機会は（公開授業を除き）これまでほとんどなかった。そこで、そうした様々な授業の工夫・実践についてまとめ、いつでもどこでも手にとって参照できる冊子を作成することにした。

作成にあたっては、まず、各部局長を通じて本学の全専任教員に「質問票」を送付した。その結果、30 名の教員より回答をいただき、その回答をもとに複数の項目に分けて授業の工夫例をまとめた。

このように、個々の教員による「よりよい授業づくり」の取り組みをシェアし合うことで、横浜国大全体の教育力の向上につなげていけると考えている。

## 学外シンポジウム等参加実績

学外で開催された FD 推進に関するシンポジウムや講演会、または、教育プログラムの成果報告会に FD 推進部員が積極的に参加し、情報を収集した。収集された情報は FD ニュースレター、各種の会議の場などを通して本学教員へ伝えられた。以下の表は参加実績を示している。なお、参加数欄の [ ]内は学生 FD スタッフの参加数であり、外数として記載した。

シンポジウム等の名称	開催日	開催地	参加数
大学セミナーハウス FD 研究会「大学の教育情報公開はいかにあるべきか」	2010/6/26	東京	1
法政大学 FD フォーラム (サマーフェスタ)「HART*コミュニティー」 大学での「授業」の活性化とは！！	2010/8/27	東京	2[7]
学生 FD サミット・2010 夏	2010/8/28-29	京都	3[4]
日本リメディアル教育学会 第 6 回全国大会	2010/8-30-31	藤沢	1
電気通信大学主催 教職員支援のための連続講演会「第 1 回 大学は学生をどのように教育したらよいか」	2010/11/12	調布	1
2010 年度 大学教育学会課題研究集会「キャリア形成における大学教育ーライフサイクルの視点からー」	2010/11/27-28	兵庫	1
大学セミナーハウス FD 研究会「学士課程教育の質保証体制の構築を目指して」	2010/12/4	東京	1
関西大学 FD フォーラム「三者協働型アクティブ・ラーニングの展開 中間報告会」	2010/12/11	大阪	1
東北大学高等教育開発推進センター主催「授業コンサルティング入門ワークショップ」	2010/12/13	仙台	1
岡山オルガノン FD・SD シンポジウム「学生と社会をつなぐ大学教育の質保証」	2011/1/9	岡山	1
国立教育政策研究所・東京工業大学共催 「大学院教育の実質化」	2011/1/14	東京	1
追手門学院大学第 29 回学校経営管理セミナー「高知大学の初年次教育」	2011/2/19	大阪	1
京都大学高等教育研究開発センター・自己意識研究会共催 国際シンポジウム「高校/大学から仕事へのトランジション」	2011/2/20	京都	1
愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室主催 平成 22 年度学生リーダーズ合同研修	2011/2/22-23	松山	2[5]
大学コンソーシアム京都 第 16 回 FD フォーラム「組織的 FD の取り組み ～ FD 義務化から現在 (いま) ～」	2011/3/5-6	京都	2
第 17 回 大学教育研究フォーラム	2011/3/17-18	京都	2

## 平成 22 年度 FD 推進部

### FD 推進部会開催記録

第1回	平成 22 年 5 月 6 日(水) 14:40-16:15	議題: 委員長代理選出/平成 21 年度事業報告/平成 22 年度事業計画/役割分担/TA 研修会—講義担当—の実施/前期授業評価アンケート/FD ニュースレターの発行/学内重点化競争的経費の申請/など
第2回	平成 22 年 6 月 10 日(木) 14:40-15:55	議題: 役割分担/FD 合宿研修会/公開授業/学生参加型 FD/前期授業評価アンケート/FD ニュースレター/など
第3回	平成 22 年 7 月 6 日(水) 10:30-12:00	議題: FD ミニシンポジウム/FD 合宿研修会/学生参加型 FD/FD ニュースレター/など
第4回	平成 22 年 9 月 17 日(金) 10:30-11:40	議題: 教育改善学生スタッフ/FD ミニシンポジウム/FD ニュースレター/公開授業/など
第5回	平成 22 年 10 月 13 日(水) 13:00-14:10	議題: FD シンポジウム/教育改善学生スタッフ/FD ニュースレター/授業評価アンケートの見直し/公開授業/など
第6回	平成 22 年 11 月 16 日(火) 10:30-12:10	議題: FD シンポジウム/授業評価アンケート/公開授業/FD ニュースレター/など
第7回	平成 22 年 12 月 16 日(木) 10:30-12:00	議題: FD シンポジウム/FD ニュースレター/授業評価アンケート/など
第8回	平成 23 年 1 月 24 日(月) 14:40-15:45	議題: 細則の改定/FD シンポジウム/FD ニュースレター/など
第9回	平成 23 年 3 月 8 日(火) 13:00-14:30	議題: 平成 23 年度初任教員研修会/平成 23 年度 TA 研修会/授業評価アンケートと自己点検票/引継事項/など

### 平成 22 年度 FD 推進部委員

部門長・兼務教員	上野誠也	経営学部	松井美樹
兼務教員	金馬国晴	国際社会科学部	根本洋一
専任教員	安野舞子	工学部	森下 信
教育人間科学部	赤木範陸	環境情報研究院	岡 泰資
経済学部	深貝保則	留学生センター	小川誉子美

ご意見・ご感想がありましたら、下記宛までお寄せください。

### YNU FDニュースレター 特別号 平成 22 年度横浜国立大学 FD 活動報告書

**編集** : 横浜国立大学 大学教育総合センターFD 推進部  
**事務担当** : 教務課大学教育係  
**問合せ先** : kyomu.kyoiku@ynu.ac.jp  
**発行** : 平成 23 年 3 月発行